



参加費：無料

主催：JAXA・佐賀県 佐賀“宙への扉”イベント

2024.11.9 (土)



【時間】 10:00 - 11:30 (予定)

【定員】 40 名程度

【会場】 県立宇宙科学館 (ガイダンス室/プラネタリウムを調整中)

※JAXA、NASA、ESA の方々が参加します。

1 NASA ジェット推進研究所元所長

チャールズ・エラチ氏 講演 (英語)

米国 NASA で 45 年間のキャリアを持ち、金星・土星の宇宙探査や地球観測の映像や体験を交えたお話を伺います。



当日は資料配布
通訳ソフトによる同時翻訳

火星探査、木星探査、金星探査、土星探査に実際に挑戦された貴重なお話を伺います。

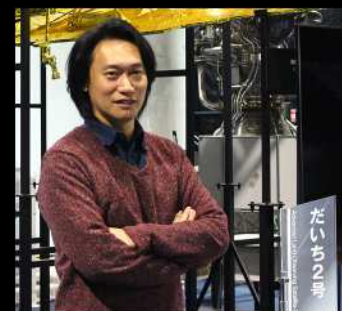
2 JAXA 宇宙航空研究開発機構

第一宇宙技術部門 先進レーダ衛星プロジェクトチーム

勘角 幸弘 氏 講演

最新レーダ衛星「だいち 4 号」の開発プロジェクトサブマネージャー

最先端の地球観測と衛星データの活用についてお話を伺います。



だいち 4 号は、地上の 3m のものまで見分ける「高分解能」を持ちながら、観測幅 200km がある最新鋭の人工衛星。地球全体を定期的に観測し、国土全体の地殻変動、防災、森林・農業、海洋の観測に利用されています。

3 質疑応答

参加されている方から、様々な質問にお答えします。

参加申込フォーム



URL:

<https://logoform.jp/f/iiE7L>

利用できない場合は、問い合わせ先の電話にて、お申し込みください。

(こんな学生に最適)

- ・宇宙に興味がある
- ・宇宙分野進学したい
- ・将来、宇宙分野の仕事に興味がある

対象

- ・中学生以上を想定
- ・一般の方も参加可能
- ・小学生も宇宙にご興味あれば参加可能

お気軽にご参加ください。

問い合わせ

佐賀県 さが政策推進チーム
担当：松永、西川

連絡先：

0952-25-7541



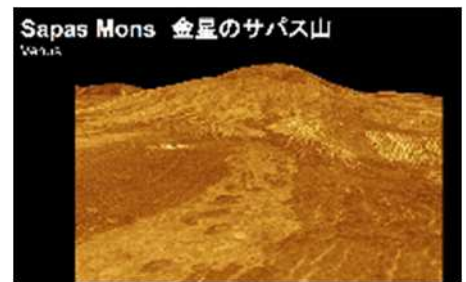
チャールズ・エラチ博士 カルテック（カリフォルニア工科大学）

金星探査機や火星探査機の映像を交えながら、チャールズ・エラチ氏から話をお伺いします。

エラチ博士はレバノン出身で、エラチ氏はフランスの大学に通っていました。1960年代後半、エラチ氏はカリフォルニア工科大学の大学院での研究を続けるためにカリフォルニアに移り、科学、工学、経営学でいくつかの学位を取得しています。2006年には、U.S. News & World Reportとハーバード大学ケネディスクールのCenter for Public Leadershipにより、America's Best Leadersの一人に選ばれました。エラチ氏は1970年にJPLでキャリアをスタートさせ、45年以上にわたり、多くの宇宙探査ミッションやプロジェクトで活発な研究者および科学研究者として活躍してきました。今回は、特に太陽系、の火星へのマイクロ波リモートセンシングミッションについてお話を伺います。-火星偵察オービター、着陸船フェニックスとローバースピリット、オポチュニティ、キュリオシティ、そして雄大な土星とその魅力的な衛星を探索するためのカッシーニなどによる探査の映像などを交えて講演を行っていただきます。



実際の火星と金星の映像



勘角幸弘（かんかく ゆきひろ）JAXA 宇宙航空研究開発機構第一宇宙技術部門 先進レーダ衛星プロジェクトチーム「だいち4号」の開発プロジェクトや、最新レーダ衛星の活用による宇宙観測についてお話を伺います。

勘角氏は、兵庫県神戸市出身。滝川高等学校から、千葉大学・千葉大学大学院自然科学研究科電子機械科学専攻を卒業後、2003年に宇宙開発事業団（NASDA）に入社。同年に宇宙航空研究開発機構（JAXA）が発足し、同機構に勤務。2007年までは種子島宇宙センターにてH-IIAロケットの打上げ設備の維持・保守、打上げ作業に従事。2007年から地球観測研究センター（EORC）にて、ALOS-2（陸域観測技術衛星2号）に搭載するLバンド合成開口レーダ（PALSAR-2）の検討を行い、その後プロジェクトチームに配属され同センサの開発、及び打上げ後の衛星運用に従事。2017年のALOS-4（先進レーダ衛星）プロジェクトチーム発足以降、PALSAR-2の後継センサであるPALSAR-3の開発を担当し、現在プロジェクトサブマネージャに就任。



2024年7月に打ち上げられた先進レーダ衛星「だいち4号」（ALOS-4）の開発の体験談や、衛星データを地球全体を定期的に観測することにより、国土全体の地殻変動、災害状況、地球環境変化、海洋など、観測に貢献している事例などをお話いただきます。衛星は高さ6.4m×幅20m×奥行き10m。質量3トン。高度628Kmの太陽同期準回帰軌道を飛行する。だいち4号の最大の売りは、地上の3mのものまで見分ける「高分解能」を持ちながら、観測幅200Km（2号では5Km）という「広いエリアを観測」できること（提供：JAXA）